Ⅰ　はじめに

　１　策定の趣旨

大阪府中央卸売市場(以下「府市場」という。)では、2017年3月に中期経営計画である『経営展望』（2017年度～2021年度）を策定し、“競争力のある市場”の実現をめざして、市場活性化等の取組みを進めてきた。

一方、府市場は、開設から40年以上が経過し、施設の老朽化への対応と合わせ、急速に変化する物流構造やＩＴ技術の進化、市場間競争の激化等に対応できるハード・ソフト両面の機能強化が求められており、2020年度から2021年度にかけて、市場の将来のあり方について検討を行った。

その結果、2022年度以降、民間資本を活用した建替えによる再整備について、具体的な検討を進めていくことになったが、その間においても、既存施設を活用しながら、市場機能を維持し、引き続き、“競争力のある市場”の実現をめざす取組みを継続する必要がある。

このため、当面の5年間について、既存施設の適切な維持管理に取り組みつつ、計画的で安定的な経営を行えるよう、ハード・ソフト両面にわたる経営方針及び収支計画を定める「経営戦略」を策定することとした。

策定に当たっては、場内事業者はもとより、消費者・実需者等の代表も加わった「大阪府中央卸売市場運営取引業務協議会」のご意見も伺い、幅広い意見の反映に努めた。

なお、本計画は、2015年９月に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」の観点も踏まえ、推進していく。

２　計画期間

2022年度から2026年度までの５ヵ年とする。

経営展望(2017年度～2021年度)の取組み成果

2017年3月に策定した経営展望では、“競争力のある市場”の実現をめざすため、市場のとるべき方策を５つの基本戦略として掲げ、それに基づく行動計画を定めた。

2020年度までに、行動計画に基づく取組みにより、同計画の全34項目中29項目(85.3％)に

おいて、一定の成果を上げている。※各項目の取組み状況については、P.25を参照

経営展望の取組みの主な成果

|  |  |
| --- | --- |
| 基本戦略 | 主な成果 |
| １．流通の変化に対応した「機動性」のある市場広域的な集荷・転送・分荷機能の強化 | 大屋根拡張工事による荷捌き・積込スペースの増加、青果大通りの車両動線の確保、駐車場の幅員拡幅、大型駐車場区画の増設など |
| ２．ニーズに対応した「付加価値」を重視する市場コールドチェーン化の推進、加工機能等の充実 | 仲卸事業者が商品の鮮度を保つ低(定)温化設備を設置する場合の事業費に対する補助の実施、空き店舗を活用した加工施設や冷蔵施設の整備など |
| ３．「民間活力」をフルに活用する開かれた市場指定管理者による効率的な運営外部活力の導入 | 指定管理者による民間のノウハウを活かしたサービス水準を低下させることのない経費削減(水光熱費など)、効率的な運営及び活性化事業の実施(防犯カメラ及びトイレの改修他)など |
| ４．場内外の連携強化で「活性化事業」に取り組む市場産地や量販店、大学等との共同事業の展開 | 産地や量販店と場内事業者が連携した「市場まつり」や「市場開放デー」などのイベント開催による販売促進や認知度向上、連携大学とのレシピ開発などの共同事業による食育の推進など |
| ５．場内事業者の「自律的な取組み」を重視する市場場内一丸での場内ルール順守の徹底 | 市場内の荷捌きルールの構築、不法駐車の排除、ＬＥＤ照明の設置、不法投棄の防止及び廃棄物処理量や処理費用の抑制、禁煙指導員の巡回による喫煙ルールの徹底など |